琉球大学学術リポジトリ

琉球沖永良部語正名方言の記述文法研究

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学
	公開日: 2017-03-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: Giis, van der Lubbe, ハイス, ファン　デル　ルベ
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/33729

様式第７号

学　位　論　文　要　旨

学位論文題目

琉球沖永良部語正名方言の記述文法研究

琉球大学大学院
人文社会科学研究科

比較地域文化専攻

学生番号　138095J

氏　名　Gijs van der Lubbe

学位論文要旨（横書き楷書、ワープロ可、字数８００字程度）

木論文は北琉球語群の言語変種である沖永良部語正名方言（以下、正名方言）における現場調査に基づいた記述文法である。**1章**序章 **2'章**音韻体系 **3章**記述の基本概念 **4章**名詞と名詞句 **5章**動詞の形態論 **6章**形容詞の形態論 **7章**コピュラの形態論 **8章**単文 **9章**複文 **10章**テンス・アスペクト・ムードの 10 章から構成される。1 章では正名方言が話されている地域の地理的位置とこれまでの正名方言に関する研究についてみていく。危機に瀕している言語としての正名方言の状況にも触れる。2 章は、正名方言の音韻体系を記述する。3 章は、正名方言の文構造と形態論的な単位と品詞の特徴を紹介する。4 章は、名詞がもつ文の主要部としての機能と形態論的な特徴、形式名詞、格の総合的な文法記述を行う。5 章は、動詞の形態論を記述する。動詞の形態的な分析を行いながら、動詞を形態論的な特徴に基づいて分類する。正名方言における動詞の語形変化を理解するにもっとも重要な概念は音素配列論である。自然言語では音の並べ方に規則性があり、その規則性を記述、分析するのが音素配列論である。6 章は形容詞の形態論を記述する。述語になる形容詞はみとめかた、丁寧さの形態論的なカテゴリーをもつが、動詞とことなりアスペクト、ヴォイス、やりもらいのカテゴリーはないため、動詞と形容詞の形態論をわけて記述することにする。9 章は名詞とくみあわさって名詞述語文の述語になるコピュラの形態論を記述する。10 章は文の主なタイプ（平叙文、疑問文、命令文）の対立と否定肯定の対立とヴォイスによる交替が正名方言においてどのように行われるかを記述する。9 章はつきそいあわせ文と連体修飾節と引用節などを記述する。10 章は正名方言のテンス・アスペクト・ムード体系の記述を行う。